

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3270300167		
法人名	有限会社 佐香		
事業所名	グループホーム 四季彩		
所在地 (電話番号)	出雲市灘分町204-2		(電話) 0853-62-1431

評価機関名	財団法人 出雲市ひらた福祉公社		
所在地	島根県出雲市平田町2112-1 平田福祉館2階		
訪問調査日	平成19年12月11日	評価確定日	平成20年2月6日

【情報提供票より】(19年11月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 14 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	35 人	常勤 7 人, 非常勤 28 人, 常勤換算	10.35 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築 / 改築
建物構造	木造平屋建て 造り	
	1 階建て	1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	1,500 円
敷金	有(円)	有 / 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) / 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,300 円

(4) 利用者の概要(11月20日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	6 名	要介護4	5 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 81 歳	最低 71 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	さとうクリニック、恒松歯科医院、出雲市総合医療センター
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周りを田畑や住宅に囲まれた場所に立地するこのホームは、自治会活動や地域行事への参加、地元住民との関わりを大切にするなど、地域密着にも積極的に取り組んでいる。入居者の過去の生活歴や特技を活かし、ホームの田畑等の農作業を行い、自然に触れ合い、季節を感じながらの外出支援も行っている。自らで作った農作物を食すことで、生活の楽しみを味わえることをはじめ、入居者それぞれの役割作りにも活かされており、また「食」へのこだわりもかいま見ることができる。「焦らず、走らず、根気よく」という方針の基、運営者、管理者、職員共に、入居者の意向を尊重し、それぞれのペースを大切にされた支援が行われているとともに、個々の能力を活用する自立支援に念頭を置いたケアがなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で改善課題としてあげられている介護計画への入居者・家族の意見の反映は、家族立ち会いのもと計画作成を行い意見を反映させるよう改善されている。また介護計画の見直しについても、定期的な見直しはもちろん、入居者の状態や思いの変化に伴いその都度見直しを行うよう取り組まれている。鍵をかけない工夫については、外出傾向のある利用者に対して、居場所の把握や外出時の付添等で対応し、日中玄関の鍵はかけていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者、管理者、職員ともに評価を行う意義を理解しており、前回の評価で課題としてあげられている項目をはじめ、それ以外の項目についても検討し、よりホームの質の向上に向けた積極的な姿勢がうかがえる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>入居者、地元自治会長、民生委員、行政関係者等をメンバーとし、定期的に開催している。今後の運営方法、日常の取り組みや行事、ご家族等からの意見や要求等の報告を行い、より地域に根ざし、また質の向上を目指した討議を行っている。運営推進会議で出た意見や提案は職員会議で検討することで、職員全員が情報を共有し、より質の高いサービスを提供するよう取り組んでいる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>来訪時の声かけ、また通信誌にもその旨を書き、家族等に遠慮なく意見を言ってもらえる体制を作っている。家族等から出された意見、苦情等は職員で話し合い共有し、前向きに受け止め、運営に反映させている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>同一法人の障害者デイサービスをはじめ、地域の老人会等との関わりが多くある。町内のイベントに参加したり、また、買い物へ出かける時も、近くの小さな商店へ行き、店の人との会話を楽しんだり、地域とより連携が図れるよう取り組まれている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人設立時より「地域とともに暮らせる・・・」という理念の基、地元根付いた事業を展開している。自治会参加や地元敬老会との関わりなど、理念に沿ったものとなっている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフミーティング、ユニット会議の際に話し合いを行うなど、共有する取り組みが行われている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会へ加入し、連携を図っている。また、文化祭、老人会への参加、交流など、地域との付き合いを大切に、積極的に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員ともに、評価の意義を十分に理解し、これを、ホームの質の向上を目指す一つの糧として、活用しようとする姿勢が見える。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、地元自治会長、民生委員、行政関係者等をメンバーとし、2ヶ月に1回定期的開催している。ホームの現況、行事の報告をはじめ、今後の運営等について協議するなど、ホームの質の向上に向け、この会議を積極的に活用している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所担当者へ度々訪問し、協議するなど、密に連携をとり、サービスの質の向上を目指し取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時や電話の他に、定期的にホーム便り等を発行し、日々の暮らしぶりや利用者の状態を家族等へ報告している。また、より普段の生活を分かりやすくするため、写真を掲示するなどして、それぞれの状況に合わせた報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をはじめ、家族の来訪時や、電話連絡の際に時間を設け、より多くの意見を引き出そうと取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット毎の入居者の特性を把握するため、6ヶ月に1回の異動はあるものの、普段の生活ではユニット間の連携が図られており、異動による利用者へのダメージは、ほとんどないと思われる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修をはじめ、法人で専門講師に依頼し、職場内研修を開催するなど、積極的に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会に加入し、その会での事例検討会等への参加、他のホームとの交流を行い、サービスの質の向上を目指し取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員による家庭訪問や、事業所の見学、体験利用を行うなど、それぞれの状況に合わせた馴染みながらサービスを利用できるよう配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀れを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者個々の能力を把握し、それぞれを尊重し、自立に向けた支援がなされている。畑仕事や季節行事、また普段の生活から、利用者に教えてもらう場面を多く設け、支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、本人、家族の希望や意向を聞きだすよう努めている。本人の意向把握が困難な場合には、職員の都合にならないよう注意している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族等の要望を尊重し、かつ本人の持つ能力を十分に活かしながら、家族立ち会いもと作成されている。職員も、日々の生活の中でより多くの課題を見つけ出し、様々なアイデアを持ちながら、計画作成を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一回の定期的な見直しをはじめ、状況に変化があれば随時行うなど、現状に即した計画の見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族等の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、入居前の主治医をそのままかかりつけ医とし、支援している。また、事情により主治医を変更する際も、本人、家族と十分に協議した上決定し、支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームの方針として、自立支援を第一に考えていることから、重度化や終末期ケアは行われていない。また、これについての職員への周知も図られており、共有されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者個々の生活歴や性格等の把握がなされ、それぞれに合った声掛け、対応を行うなど、入居者を尊重した支援がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自立に向けた支援を念頭に置き、入居者個々の能力等を把握がされ、それぞれに合ったペースでの支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も、入居者とテーブルを共にし、同じ物を食べながら、食事するなど、楽しみながらの支援がなされている。また、準備、後片付けも入居者とともにいき、支援されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には1日おきとなっているが、それぞれの希望や状況に合わせて毎日入浴も実施されている。時間帯についても、本人の希望で入浴できる体制が整っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や能力を把握し、畑仕事や家事で力を発揮できるよう役割を見出している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの畑や柿畑、馴染みの商店への買い物など、入居者それぞれの希望に沿った外出支援がなされている。また、散歩やホームの駐車場を利用しお茶会を行うなど、ホームに閉じこもらないよう取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関が施錠されることはなく、入居者、家族等とも自由に出入りができる。また防犯上の理由で、夜間は施錠されているものの、家族の来訪等への対応はなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練を行っている。また、水害により避難生活を行い、その際に地元住民の協力得ている経過があるなど、地域への働き掛けも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は個々にチェックし把握している。また、利用者の一人ひとりの状態に合わせ、刻み食やとろみ食等柔軟に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い込まれた食器棚、テーブルをはじめ、座敷を設けるなど、生活感があふれた共用空間となっている。また、光量や音量、臭いにも気をつけ、不快感を与えないよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、入居前に使用していたタンスや棚など馴染みの品が置かれるなど、それぞれにあった居室環境作りがなされている。		